課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
領域開拓プログラム（研究テーマ設定型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質			
研究テーマ名		リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析			
研究代表者	所属機関	学習院大学			
	部局	法学部			
	役職	教授		氏名	遠藤　薫

委託研究費			単位：千円
平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
９，４００	１０，０００	１０，０００	６００

１．研究の概要
研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

①研究目的

「リスク社会」とも呼ばれる現代において、急速に発展するメディアは、ソーシャル・キャピタルの形成と変容に大きな影響をおよぼしている。本研究は、ソーシャル・キャピタルおよび公共性概念を根本から再検討し、現代の重層的メデイア環境におけるその変質を解明しつつ、「公共性」の理念のもとにソーシャル・キャピタルの健全な形成の条件を探求することを目的としている。

②研究内容

人文・社会科学的な理論研究・社会調査な・モデル構築など多面的なアプローチを遂行するだけでなく、自然科学的方法論に基づくシミュレーションやビッグデータ分析などの新しい科学的分析を援用することにより、これまでになかった包括的かつ客観的状況分析と、そのダイナミックな未来予測および研究結果の動的表現を実現し、グローバル世界への情報発信を行った。

③成果・波及効果

本プロジェクトにおいては、社会学グループ、情報学グループ、経済学グループが緊密な連携をとりつつ、「新しい公共性」問題について、「計算社会科学」と称される新たな文理融合的方法論を開拓しつつ、多くの研究成果（著作物、論文、講演など）を世に問うた。とくに、計算社会科学分野における世界トップクラスの研究者を海外から招聘して、3 回の公開シンポジウムおよびワークショップを開催した。これらのシンポジウムには、国内外からの関心も高く、多くの参加者を集めて、成果発表、意見交換などを行った。またこれらを契機として、2017 年 2 月、計算社会科学研究会を設立し、多くの関連研究者とともに、研究の深化、およびグローバルな発信（国際会議への参加）を活発化させている。2017 年秋には、Springer 社から英語論文集を公刊する。

④実施した研究の概要

東日本大震災後の社会において、ソーシャルメディアがどのようにリスク社会に対応し得るか、ソーシャルメディア上のデマ拡散のダイナミズム、ソーシャルメディア上でのバースト現象（炎上など）が実社会にどのように影響を及ぼすか、現代世界における Brexit やトランプ現象などの問題を計算社会学的方法論によって明らかにした。それは今後の社会設計に大きく役立つ成果である。